



〈R08202016〉

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
 - 2 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
 - 3 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
 - 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に消し残しがないようによく消すこと。
- | | | | |
|---------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| マークする時 | <input checked="" type="radio"/> 良い | <input type="radio"/> 悪い | <input type="radio"/> 悪い |
| マークを消す時 | <input type="radio"/> 良い | <input checked="" type="radio"/> 悪い | <input checked="" type="radio"/> 悪い |
- 5 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。
- | | | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数字見本 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
 - 8 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
 - 9 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
 - 10 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ポランニーによれば、経済という現象は人類社会に大昔から存在した。狩猟や採集、農耕、牧畜で暮らす、あるいはそれらの活動の産物を交換し分け与える——これらはいずれも財の生産・分配・消費という意味で経済といえるだろう。それはまた資源の移転と言いかえることもできる。たとえば、狩猟生活も農耕生活も自然から人間への、あるいは人間から人間への資源の移転だからである。ポランニーは人類のそうした経済あるいは資源の移転のあり方を、「互酬・再分配・市場交換」という三つの様式からとらえ直そうとした。どういうことか。

まず「互酬」とは、モースの論じた、贈る・受け取る・お返しをする、という贈与の義務に相当する。何かを与えなければならぬ。与えられたら受け取らなければならない。受け取ったらお返しをしなければならぬ。このような贈与の義務によって資源が移転していくのが互酬である。いわゆる未開社会や部族社会の経済は、この互酬の原理に基づいており、その例としてポランニーはモースと同じようにトロブリアンド諸島のクラを挙げている。

次に「再分配」とは、権力者によっていったん人びとから徴収された財貨や資源が事後的に人びとに文字どおり再分配されることで、権力者がみずからの権威と権力を保ち続けるしくみである。このようなしくみを「国家」と呼ぶことができるだろう。ポランニーによれば、このしくみは古代文明（古代メソポタミアやエジプトなど）の成立とともに生まれた。そこでは中央の権力者（王や神官など）がみずからの権威によって強制的に人びとから食糧や税を徴収し、労役に就かせる。徴収された財貨や物資、労役によってつくられた施設（灌漑施設や宗教施設など）が、今度は人びとの生活に利用される。このしくみは近代になり市場交換が支配的になるまで長い間続いたので、便宜的に前近代社会の特性としておこう。ただし、近代の国民国家においても、国民から徴収した税金が公共施設の建設、教育、福祉などに用いられるという形で、このしくみは引き継がれている。

最後に「市場交換」は、単純に商品と貨幣の交換と考えることができる。われわれの生活は、市場経済抜きには成り立たない。コンビニで買い物をする、働いて賃金を得る、株の取引をする、貿易をおこなう。これらはいずれも、市場における商品と貨幣の交換だ。重要なのは、これらの交換が互酬や再分配には見られない特徴を持つことである。ポランニーによれば、それは「需要・供給と価格メカニズム」である。市場交換においては、需要と供給のバランスにより価格が自動的に調整・決定され、これによって資源の最適な移転や配分がなされるとされる。たとえば、バナナの価格はそれを売りたい側（供給）の希望と、買いたい側（需要）の希望のバランスがうまく取れたところで決まる。バナナの値段は、ここまでなら安くできるといふ供給側の事情と、多少高くてもここまでならお金を払えるといふ需要側の事情が一致する点で、価格となる。これによって、バナナという資源が最適に移転・配分されるというメカニズムである。当たり前といえたり前の話だが、このような市場交換メカニズムが社会を支配するようになるのは、近代になってからである、とポランニーは何度も強調している。

簡単に整理しよう。部族社会↓前近代社会↓近代社会、という流れ。それは、親族↓国家↓資本という社会システムの基盤の変化としてとらえることができる。それはまた、

1
↓
2
↓
3

という資源の移転様式の変化としてとらえることもできる。ただし、誤解のないようにいえば、近代社会にも贈与や再分配はもちろんあるし、未開社会でも原始的な市場交換はおこなわれていた。あくまでも、その時代の主要な資源移転様式ということである。

未開社会（部族社会）では親族組織が社会システムの基盤となり、ここでは贈与によって共同関係と敵対関係が調整されるとともに、自分たちがこの世界に在ることの意味が確認される。古代文明になると、中央の権力者が官僚制と軍隊を用いて人びとから資源や財貨、労働力を強制的に取り立て、お返しとして再分配をおこなうことで人びとを支配する。さらには近代社会に入ると、資本という、親族や国家を横断し、場合によってはそれらを壊してでも利潤の獲得を目指す作用が社会的支配的原理となり、ここでは人びとの生活全体が市場における商品と貨幣の交換によって囲い込まれることになる。

さて、このような歴史の変化を振り返ることで、ポランニーはいったいどんなことを目論んだのか。それは、繰り返されることになるが、近代の資本主義社会を批判的に見直し、その弊害を是正する、あるいはその限界を乗り越えようとすることだった。

近代資本主義社会では、人びとは市場を介して少しでも自分が得をするように、あるいは損をしないように「合理

的」に振る舞うとされる。「イ」そのような人間のあり方を「ホモ・エコノミクス」と呼ぶ。ラテン語で「経済人間」という意味だ。近代資本主義社会では個人や家計から企業さらには国家にいたるまで、数多くのホモ・エコノミクスが市場に参加し、それぞれが合理的に行動することで需要と供給のバランスが生まれ、商品の価格が決まっていくとされる。ここでは、商品こそが主役である。マルクスが『資本論』の冒頭でいうように、資本主義社会とはこうした「商品の巨大な集積」にほかならない。そこで土地と労働力でさえ商品となる。ポランニーは、その——近代人にとっては

——当たり前の事実が、これまでの人類社会に普遍的に当てはまるわけではないことを論証しようと試みた。さらにはその作業を通し、近代資本主義社会のしくみの特異性を、もっと強くいえば異常性をバクロしようとしたのである。

ではその特異性、異常性とは何か。経済史学者・経済人類学者としてさまざまな時代や地域の経済を比較研究してきたポランニーは、人類史の大部分において、経済は血縁や地縁などの社会関係のなかに「埋め込まれて」おり、それらの全体がひとつのまとまりを成していたことを力説する。先に見た例でいえば、メラネシアのクラや北アメリカ先住民のポトラッチに見られた贈与も、ただその行為だけを形式的に取り出してみるかぎり、現代人には非合理で

な印象しか与えない。だがその贈与行為を親族や宗教、文化などのなかに、言いかえるとその行為のコンテクストのなかに「埋め込んで」みると、そこにはとても重要な意味があることが理解される。

これに対し、近代資本主義社会の市場交換はそのような社会関係やコンテクストとはほとんど無関係におこなわれる。たとえば、取引相手の年齢や性別、親族、職業、宗教などは原則的にカッコに入られる。【ロ】この市場交換にともなう「カッコ入れ」により、人びとは社会関係やコンテクストから「脱埋め込み」される。「脱埋め込み」とは、何かを、それがとも埋め込まれていた社会関係から引き離し、自由にするという意味である。【ハ】つまり、いつでも、どこでも、どんな相手とでも、同じように取引をおこなうことが可能となったのである。

この「脱埋め込み」にはもちろんポジティブな面もあった。たとえば、取引がスムーズにおこなわれるようになり、それによって現代のグローバルゼーションにまでつながる大規模な市場の拡大が可能となった。そのおかげで、人びとはさまざまな種類の商品をいつでも好きなだけ手に入れる可能性——あくまで可能性だけだが——を手にした。さらには、この「脱埋め込み」によって、それまで親族関係や身分関係などにがんじがらめになっていた人びとが解放されるようになったのである。近代になって市場交換が盛んになることで、それまでの贈与や再分配という、親族関係や身分関係に縛られたやり取りとは異なる、他者との新しいコミュニケーションが可能となった。たとえば、一八世紀末のフランス革命や一九世紀半ばのヨーロッパ各地における革命は、市場交換によって人びとがそれまでの封建的身分関係から「脱埋め込み」されていったことが可能にした出来事だったともいえる。近代人が手にした自由や平等の権利は、市場交換という新しい資源移転の様式が浸透することなしには不可能だっただろう。【二】

だが、ポランニーはそのことを十分に認めつつ、この市場交換とそれがもたらした「脱埋め込み」のネガティブな面に批判的な目を向ける。土地と労働力が商品になるということ、それは、「自然」と「人間」が商品になるということである。少し考えてみればわかるように、人間は自然の一部に過ぎず、しかもその自然そのものを人間が創造することはできない。自然は人間に与えられたもの、贈与されたものだ。それを、近代以降の人間はすべて商品にしてしまった。言いかえると、

5

ということである。

一八八六年生まれのポランニーは市場経済の猛威と、それによって引き起こされた歴史的出来事を生々しく目の当たりにした世代だった。一九世紀以降、ひとり歩きをはじめた市場経済は、さまざまな矛盾や弊害をもたらした。農村のキユウボウ、都市部のシンコクな失業問題、貧富の差の拡大、資本家と労働者の階級対立、等々。ポランニーによれば、二〇世紀の前半を揺るがした未曾有の出来事——第一次世界大戦、ロシア革命、世界恐慌、ファシズム、第二次世界大戦など——の背景には、こうした矛盾や弊害があったのである。戦争と革命は、ある意味でそうした矛盾や弊害への対抗策という面も有していたが、しかし、これらの対抗策は文字どおり自然と人間を破壊してしまった。

こうした悲劇的出来事はなぜ起きたのか。その背景の重要なひとつが、市場経済による社会関係の希薄化である。太古の昔から、人類は親族組織、宗教、文化などにより生きることを意味を確認し、また世界に意味を見出してきた。その意味づけが、親族や宗教、文化からの経済の「脱埋め込み」によって希薄化されてしまったのだ。二度の世界大戦や全体主義、暴力的な革命は、そうした意味づけの空白において生まれた。それらは、生きるための意味づけが曖昧となった時代において、権力者に都合のよい身勝手な一方的な生の意味づけを（というより、死の意味づけを）グロテスクなやり方で国民に強制するものだったのではないか。ポランニーはそう考えたのである。

(注) モース…Marcel Mauss (一八七二—一九五〇年) 社会学、文化人類学の学者。

クラ…ニユーギニア東端から、東北部の島々を結んで行われる儀礼的交換のこと。

ポトラッチ…アメリカインディアン社会にみられる儀礼的な贈答競争のこと。

問一 二重傍線部 a、c の片仮名を、漢字(楷書)で解答欄に記入せよ。

問二 本文には、次の一文が脱落している。本来入るべき場所として【イ】～【三】の中から最も適切なものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

そうしなければ公正かつ効率的な市場交換などできないからだ。

問三 「再分配」によって、傍線部 1 「権力者がみずからの権威と権力を保ち続けるしくみ」となるのはなぜか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人びとが労役や税によって収めた資源が権力者の権威によって公平に再分配されることによって、前近代社会の秩序と平和が維持され「国家」というしくみが整ったから。

ロ 権力者によっていったん人びとから強制的に徴収された財貨や資源が事後的に人びとに再分配されることによって、人びとの共同意識が高まり「国家」との一体感が醸成されるから。

ハ 権力者が人びとから税や食料等を徴収するなどして蓄えた富が再分配されることによって、今度は人びとに恩恵として享受されるという循環が生じ権力者の権威が強化されるから。

ニ 人びとによって蓄えられた財貨や資源がまわりまわって人びとに再分配されるのは、王や神官など中央の権力者の権威と知恵にもとづく計画的で緻密な税制度があったから。

問四 傍線部 2 「便宜的に前近代社会の特性としておこう」において、「便宜的に」が付されている理由が述べられている一文を、直後の一文を除いて本文中より抜き出し、はじめの五文字(句読点を含む)を解答欄に記入せよ。

問五 傍線部 3 「互酬や再分配には見られない特徴」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 貨幣と商品の交換には、需要と供給の一致点として価格が調整・決定されるメカニズムがあるということ。

ロ 市場交換においては、需要と供給の変動により価格が無作為にプログラムされて、資源の移転がなされるという事。

ハ バナナで例えると、将来的・潜在的な価値は売りたい側と買いたい側の希望のバランスが調整できたところを決まるということ。

ニ 市場経済における貨幣と商品の交換という資源の移転は、前近代における互酬や再分配にはないシステムだという事。

問六 空欄 1、2、3 に入る語句として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つ

ずつ選び、解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|-------|
| イ 貨幣 | ロ 権威 | ハ 贈与 | ニ 再分配 | ホ 官僚制 |
| ヘ 親族組織 | ト 未開社会 | チ 市場交換 | リ 共同関係 | |

問七 傍線部4「ここでは土地と労働力でさえ商品となる」のはなぜか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 数多くのホモ・エコノミクスが市場に参加し、それぞれが合理的に行動した結果として近代資本主義社会が生まれたから。

ロ 贈与や再分配という資源の移転様式ではその対象とはならなかった土地や労働力も、近代資本主義下では需要と供給のメカニズムが働くから。

ハ 近代資本主義社会では、人びとが市場を介して少しでも自分が得をしようと利己的に振るまい、その結果として勝ち負けが生じたから。

ニ 需要と供給のバランスによって土地や労働力の価格さえもが決まる資本主義社会では、人びとの合理的な振る舞いによって特異性・異常性をもたらすことになるから。

問八 空欄

4

に入る四字熟語として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 不得要領

ロ 一知半解

ハ 本末転倒

ニ 荒唐無稽

問九 空欄

5

に入る内容として最も適切なものを

を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ もともと自然と人間のなかに「埋め込まれて」いた経済が「脱埋め込み」され、市場経済という形で自然と人間を支配するようになった

ロ もともと人間に贈与された自然の一部である土地を人間自身が商品化することによって、近代社会は市場経済を根付かせるようになった

ハ もともと自然のなかに「埋め込まれて」いた土地が市場経済の中で「脱埋め込み」されることによって、近代社会は人間を商品化することに成功した

ニ もともと前近代において人間と自然は共存していたが、市場経済の中で商品化されることによって資本主義社会の矛盾や弊害をもたらすことになった

問十

傍線部5「その意味づけが、親族や宗教、文化からの経済の「脱埋め込み」によって希薄化されてしまったのだ」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 部族社会の贈与も前近代社会の再分配も人間と自然の関係を壊さずに生きる意味を与えてくれたが、市場経済は人びとの合理的な行動によって社会関係の希薄化を招いたということ。

ロ 市場経済の希薄化により人類が築き上げてきた宗教、文化などと人間が切り離されてしまった結果、二度にわたる世界大戦や全体主義、暴力的な革命などの事態が起きたということ。

ハ 人類は親族組織、宗教、文化などにより生きるこの意味を確認し社会関係を築いてきたが、二度にわたる世界大戦や全体主義などによって社会関係は破壊されてしまったということ。

ニ 市場経済によって自然と人間との関係が切り離されたことによって、長い歴史の中で人類が見いだしてきた宗教や文化などによる生きるこの意味が薄められてしまったということ。

二、次の文章は『飛弾匠物語』の一節である。松光は、男（本文では「山人」）を恋慕う娘に同情し、浅草寺で二人を密会させようとする。これを読んで、あとの問いに答えよ。

※さて浅草に行きつきけるに、この御寺は東国第一の霊場にて、参詣の男女ひきもきらず、にぎはしきこと言ふもおろかなり。げにこそ薩埵の御利生いみじきしるしなれと娘も拜み入りて、御堂を下りて、ここかしこ立ちやすらひて見めぐらせど、山人を見ず。いつのときにかまたあひ見んと、心ひとつに思ひわびつつ、山の紅葉をめぐるにかこちてとかくやすらひをる程、日も西にかたむきなんとす。松光も心ならず、なほ立ちもとほりをれど、山人が影だに見えず。供にそひたる男女、「はや日ぐれに近く候へば、母君の待ちおはしますらんを、とく帰らせ給へ」と言ふ。しばしこそあれ、さのみ御寺のうちにたたずむべきにあらねば、あながちに竹輿に乘らんとすれば、あなたより息をきつて走り来る人あり。※

松光うち見るに山人なれば、さしよりて、「などてかく遅くは来給へる。待ちつかれて今帰らんとて、かの人ははや竹輿に乗り給ひき」と言ふに、山人、「今朝より母人の癩に悩み給へば、とかくあつかひて、心ならず遅くなりぬ」と言ふ。供の男女の目を忍べば、竹輿の辺りに寄りつくべきにあらず。何となく松光と物語するふりして竹輿の内を見やれば、娘もほいなげに山人をうちまもりをり。月ごろは隔つれど、かくあたり近くその人を見るも夢の心地のみせられて、輿より飛び出でたき心地すれど、思ひ念じてうちまもり見るに、春見初めしには中々近まさりしてうつくしき男なれば、いよいよわりなき思ひをぞそへける。

並樹だちたる所に来ければ、このわたりは物語での人も少なくややものさびしげなり。ときに娘いかにしたりけん、竹輿の内にて、「あ」と叫びければ、供の者どもまづ輿を地にすゑさせてあわてあつかふ。松光驚きて、「これは月ごろの病の再び起こりたるならん」とて輿をのぞき見て、「正気さらにつき給はず。このあたりさるべき医師あらん。尋ねて来よ」と言ひつけやりて、また一人の女に、「A」。誰々はとく家に走り帰りてこのよしを告げよ。我あればこの所は心やすかるべし」と言ひて皆人々を走らせやりて、いかで山人を輿の内に入れてしばしだに物語などせんと心を配りけるに、輿かく男二人まだかたはらにあれば、松光頭かきて様々思ひめぐらしけれど、この上彼らを避け遠ざくべき法もなし。いかにせんと色々思ひて、にはかに「うう」と言ひてそりかへりぬ。山人も輿かく男も驚きて介抱すれば、松光絶え絶えなる息の下に細き声にて言ひけるは、「我心を使ふときはいつもかかる病発しぬ。B」と言へば、輿かく男一人やがて酒売の軒をさして走り行きぬ。松光かたへを見れば、今一人輿かく男あれば、彼に向かひて、「我忘れたり。かの酒 C」と言ひつけてやるべきを忘れつ。汝とく追つかけて言へ。ただし汝らもそのついでに酒飲みて来よ」と言ひて錢投げ出だしてやりければ、この男も足を空になして走りいぬ。「さて邪魔の奴は皆神やらひにやらひぬ。山人ぬしとく輿のもとに寄り給へ」と言ふに、さすが恥づかしくや、ためらひて寄りも来ず。松光いらちて、「今にも湯も酒も一度に持て来たらん。敵に向かはん大將軍のさやうに怖ぢ憚るべきかは」と言ひて、手を取りて輿の戸を開けて突き入れんとす。娘ははじめよりそら病作りゐたるに、松光が人を避けてはかりごとを行ふほど、笑ひを忍びてありけるが、戸を開けて山人が顔ばかり差し入れつれば、恥づかしさを忘れてしがみつかんとするとき、「湯を持て参りし」と女が声すれば、山人驚きてとく飛び退きつ。松光見て、「この湯 D」と言ふに、女、「いかでぬるからん。たぎり湯にて候」と言へど、松光頭を振りて、「ぬるしぬるし」と言へば、女はふつくみつつまたもとの家へ走りいぬ。松光山人が手を取りて、「まづ輿の内に入り給へ」と言ひさま、強ひて押し入れんとする所へ輿かく男走り来て、「酒持て参りつ」と言ふに、山人また輿のわきに飛び出でたり。松光、「この酒 E」と言へば、輿の男、「冷ましなんにはかしこに持ち行かずともこももにても冷め申すべく」と言へば、これにつまりて言ふべきことなく、また頭かきてゐたるに、女も湯を持て来たれば、今は術計尽きてせんすべなし。

(注) 薩埵…菩提薩埵の略。菩薩。

問十一 二つの※で挟まれた段落（「さて浅草に」～「走り来る人あり。」）の中に「今日あひ参らせずは、」を挿入するとすれば、その箇所はどこが最も適切か。挿入箇所の直後の三文字を本文中から抜き出し、解答欄に記せ。ただし句読点・カギ括弧は字数に数えない。また、振り仮名がある場合は付さないこと。

問十二 二重傍線部イ、ホのうち、係助詞を一つ選び、解答欄にマークせよ。

問十三 傍線部1「ほいなげに」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ それとなく
- ロ 嬉しそうに
- ハ うっとり
- ニ 一心不乱に
- ホ 残念そうに

問十四 空欄

A

E

に入る文章として最も適切なものを次の中から一つずつ選び、解答欄にマークせよ。

ただし、同じ記号を二回以上用いてはならない。

- イ なほぬるし。今少し温めて持て来よ
- ロ ひとたび温めてそれをよく冷まして再び温めて持て来よ
- ハ かしこの家に行きて湯をわかして貰ひて来よ
- ニ あまりにわきすぎたり。かしこに持ち行きて冷まして来よ
- ホ これには酒を飲めばたちまちに癒ゆるなり。とく酒を買ひて来よ

問十五 傍線部2「しばしだに物語などさせん」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ この浅草寺に伝わる伝説を話して聞かせよう
- ロ 落ち着いてゆつくり話し合う時間を与えよう
- ハ ほんの少しの間だけでも会話をさせてやろう
- ニ 限られた時間だがこれまでの苦勞話をしよう
- ホ 久しぶりにお互い積もる話でもさせてやろう

問十六 本文の内容と合致する最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 浅草の菩薩は、熱心に恋の成就を祈る娘の姿に感心し、山人の姿となって現れた。
- ロ 山人は、秋に娘と会って恋に落ちて以来、春に至るまでその思いを募らせてきた。
- ハ 山人の母親は、山人と娘との恋がひどく気に入らず、口を極めて山人を罵倒した。
- ニ 娘は、念願叶ってようやく山人と会えた嬉しさの余り、山人に抱きつこうとした。
- ホ 松光は、山人と娘とを密会させ、さらに湯や酒を飲ませて場を和ませようとした。

三、次の文章は、清・袁枚が客に料理を提供する際の注意事項について説いたものである。これを読んで、あとの問いに答えよ。(設問の都合上、訓点を省略した部分がある。)

戒_ニ A 餐_ヲ

何_ヲ謂_フ A 餐_ト。 A 餐_{ナル}者_ハ、務_{ムル}名_ニ之_ヲ謂_ヒ也。貪_リ貴物_之名_ヲ、誇_ル敬_フ

客_ヲ之_ヲ意_ヲ、是_レ以_テ A 餐_シ、非_ニ口_ノ餐_{スル}也。不知_ラ豆腐_得味_ヲ、遠_ク勝_リ燕_窩

窩_ク、海_菜不_レ佳_{カラ}、不_レ如_ニ蔬_筍。余_嘗謂_フ、鶏_{、猪}、魚_{、鴨}、豪_傑之士_也、

各_有二本_ノ味_{、自}成_ニ一家_ヲ、海_參、燕_窩、庸_陋之人_也、全_ク無_ク性_情、

寄_ニ人_ノ籬_下。嘗_テ見_ル某_{太守}、宴_客、大_碗如_レ缸_{、白}煮_ニ燕_窩、四_両、

糸_毫無_ク味_{、人}争_テ誇_ル之_ヲ。余_笑曰_ク、「我_輩来_テ吃_ニ燕_窩、非_ニ来_テ販_ニ

燕_窩也」。可_販不可_吃、雖_多奚_為。若_シ徒_ニ誇_ラ体_面、不_レ如_カ碗_中

竟_ニ放_ニ明_珠百_粒、則_チ価_値万_金矣。其_如吃_{スル}不_レ得_何。

(袁枚『随園食單』による)

(注) 燕窩……ツバメの巣。 海菜……海産物。

蔬筍……野菜やタケノコ。 海參……ナマコ。

白煮……何も加えず、そのまま煮る。

四両……約百五十グラム。「両」は重さの単位。

吃……食べる。

問十七 空欄 A に入る漢字一字として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 目 □ 耳 ハ 鼻 ニ 舌 ホ 心

問十八 傍線部 1「全_ク無_ク性情、寄_ニ人_ノ籬_下」とはどのようなことを述べているのか。最も適切なものを次の中から

一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ しつかりした主張を持たず、いつもかこの中に閉じ込もつてしまう。

ロ 個性にまったく恵まれないが、周りのものを引き寄せることができる。

ハ 自分の感情というものがないので、人と離れた場所に身を置きたがる。

ニ 本当に凡庸な性格であるため、誰の仲間にも加わることができない。

ホ 自分なりの持ち味がまったくなく、他のものの性質に頼りきっている。

問十九 傍線部 2「可販不可吃、雖多奚為」の読み方として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

よ。

イ きつすべからざるをあきなふべくんば、おほしといへどもなんぞなさん

ロ きつすべからざるをあきなふべくんば、おほきをなすといへどもいかん

ハ あきなふべくんばきつすべからず、おほしといへどもいかんせん

ニ あきなふべくしてきつすべからざれば、おほしといへどもなにをかなさん

ホ あきなふべきにきつすべからざれば、おほしといへどもなんのためなるや

問二十 この文章の表現と内容について、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 「豆腐」と「蔬菜」がありきたりな食材の例であるのに対し、「燕窩」と「海菜」は珍奇な食材の例として用いられており、その両者のうち筆者は前者の方を高く評価している。
- ロ 「豪傑之士」と「庸陋之人」は、いずれも食材を人間になぞらえたものであるが、「海菜」はこれらのうち前者のグループに含まれる食材である。
- ハ 「某太守」が催した宴会の逸話は、筆者が直接見聞きした実例の一つとして挙げられており、味のない高級食材をただ大量に出すだけの料理が批判の対象となっている。
- ニ 文章の後半では筆者自身のセリフが挿入されており、味のない「燕窩」にも金銭では買い求めることのできない高い価値があることが強調されている。
- ホ お椀の中に「明珠百粒」を入れるというのは、華やかな食材を数多く並べることのたとえであり、たとえ味が劣っていても料理は見た目を重んじるべきことを説いている。

〔以下余白〕

〈2026 R 08202016〉

受験番号	万	千	百	十	一
	ふ	も	せ	せ	と
氏名					

(注意) ・所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。
 記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 ・受験番号・氏名は上下の両欄に記入すること。
 ・解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで所定の解答欄に記入すること。

問十一	二	問四	問一	一													
<table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> </table>					<p>a</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> </table> <p>b</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> </table> <p>c</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black;"></td></tr> </table>							

〈2026 R 08202016〉

受験番号	万	千	百	十	一
	ふ	も	せ	せ	と
氏名					

(注意) ・所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。
 記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。



問十一	二	問四	問一	一
<table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"></table>		<table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"></table>	<table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"></table>	